

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102312		
法人名	有限会社 ブロンディ		
事業所名	グループホーム ブロンディ		
所在地	〒030-0847 青森県市東大野1丁目21-2		
自己評価作成日	令和 4年 10月 31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の意思を尊重し、やりたいこと、できること、行きたい所の把握(思いの理解)に努め、日々の生活を大切に、楽しんでもらえるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>2ユニットのグループホームで、利便性のよい住宅地にある。新型コロナウイルスの影響のため、様々な活動や交流が思うようにできない状況にあるが、地域の一員として公園の管理を継続して担っている。グループホームはゆったりとした時間が流れ、職員は理念を念頭におき入居者を第一に考えてケアを提供し、今まで培ってきた経験や趣味活動、やりたい事などを日常の暮らしに生かし、楽しみや嬉しさを感じながら自信に繋げられるように取り組んでいる。グループホームでの暮らしを支えるために、家族、地域の協力があり、入居者は豊かに過ごせている。入居者、家族の多くは終の棲家として入居を希望される方が多く、最後まで生活を支えられるように重度化や終末期の支援に取り組んでいる。</p>
--

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて随時指導、助言をし、スタッフの実践を促している。	理念の実践と共有の為に、玄関と事務室に掲示している。理念を念頭に置きながらサービス提供し、月1回のカンファレンスや事例を振り返る事で介護の質を高められる様に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年公園の草取りや町内の夏祭りに参加しているが、コロナウイルスの影響で町内の夏祭りも中止となっている。	感染症対策もあり町内活動への参加やグループホーム主催で行う行事等中止となり、従来の様な取り組みは行えない状況にあるが、町内の公園管理を担い草刈りを継続している。近所の方が相談に見えたり、おすそ分けを頂く事がある。期日前投票に出かけ地域社会との繋がりを保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の女性部に「介護保険について」や、「認知症について」「介護保険施設について」説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や助言をできる限りサービスに反映させている。	2ヶ月に1回書面での会議を開催し、活動状況や評価について意見への対応策など丁寧に報告され、理解や意見を頂いている。会議の内容については口頭で伝える他、会議録を玄関に置く事でいつでも誰でも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やファックスだけでなく、直接訪問して、顔の見える関係作りに努めている。	運営推進会議の他、困難事例や個別の問題等は、窓口で直接出向き相談し関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束について研修を行い、日々のサービスの見直しをしている。また、少しでも身体拘束に触れるような事案については、家族も含めた話し合いを設け、代替策を検討している。	身体拘束をしない事を掲げ、研修会で正しい理解に繋げている。拘束を希望する家族に対しリスク等説明し、理解を得ながら取り組まれている。行動の背景を探りながら、申し送りや会議の場で情報共有と事例の検討を行い、毎月、家族へ様子を伝えながら最善策が図れる様に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回虐待について研修を行っている。日々のサービス内で発赤や内出血の有無、表情、行動等を観察し、常に虐待が潜んでいるか管理者やリーダーは注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に取り入れ、必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は理解していただけるよう言葉を加えるとともに、不安や疑問もすぐに尋ねられるようコミュニケーションを十分取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は面会時に話せるような機会を設け、反映するようにしている。	信頼関係を築けるようにコミュニケーションを大事にしている事で、運営推進会議以外でも、入居者は日常の中で遠慮することなく要望を出し、職員は叶えられる様に対応している。家族とは、電話や面会、支払いに来訪した際に意見を聞きだす様に取り組み、設備に関する事や、職員の接遇に関する意見があり、ミーティングで共有し実践しており、その後の結果もお伝えしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勤務交代時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のカンファレンスや申し送りで意見を出し合い、運営に活かしている。事故防止の取り組みとして、入居者の状況や変化に合わせて、業務の見直しや勤務体制を調整する事でゆったりと向き合えるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績は、給与、賞与等に反映させている。資格が取りやすいように勤務変更をしたり、向上心が持てるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の提示、社内研修の充実(お茶の水ケアサービス学院ネット配信サービスを今年度から導入)等で学習の機会を設け、資格取得機会を提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修を通して、同業者と交流する機会を設けている。その時に得た情報や知識はサービスの向上に一役買っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を管理者だけでなくスタッフも同行し、できるだけ不安や困っている事、要望等を複数で受容するようにしている。(コロナのため、今年度は必ずしも行っているわけではない)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の前の申し込みの時点から家族の困っていること、不安なこと、要望等を受容し、介護相談ができるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としているサービスを見極め当サービスだけでなく、他のサービスも提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の視点を重視して、される介護ではなく、自分でしたい生活ができるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のきずなを大切にし、家族の役割を継続できるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が入所によって途切れないように、入所後も継続している。例えば、理美容院や病院、サークル等である。(コロナのため、今年度はサークルへの参加は無し)	今までの状況や日常会話の中からも把握し、可能な限り関係性が維持できる様に取り組んでいる。医療機関や美容室、入居前に利用していたデイサービスセンターへ行き友達に会えるように支援している。同級生や仕事仲間の来訪もあり、感染対策を講じながら多様な面会方法を取り入れ関係性が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性を重視し、馴染みの関係作りができるよう、お互いに認め合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族の困っている事、不安なこと、要望等を受容し、介護相談ができるよう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いは日々のコミュニケーションを通して、把握できるよう努めている。また、家族の意向は、毎月の面会時に把握できるようにしている。	日々の関わりの中での気づきや会話、しぐさから気持や思いを理解するように努め、家族とも把握した内容を共有し、希望に添えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの細かい情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での観察を行うとともに、家族、医療従事者から情報を得られるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、本人、家族、主治医、看護師と話し合い、介護計画を作成している。	計画作成者を中心に本人、家族の意向、関係者の意見を反映し計画作成が行われている。毎日変化する入居者の状況を記録し、ミーティングや会議で意見交換し、毎月のモニタリング状況を家族へ書面で報告し本人に必要なケアが行えるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報の共有がしやすいよう、項目ごとに記録したり、気づきを活かせるよう、経時的記録だけでなく、テーマごとに記録するよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿うよう柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、社会資源を活用している。(町内会、公園等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係は途切れないよう受診介助している。また、受診の結果は速やかに報告し、家族の希望も大切にしている。	本人、家族の意向でかかりつけ医を決定している。家族と協働し大半の方が従来の医療機関の受診を継続している。あらかじめ、変化時の対処方法や助言を受け、確認を取りながら受診に繋げている。夜間も医師とやりとりできる体制にある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と主治医にいつでも相談できる体制をとり、適切な医療をすぐにうけられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時だけでなく通院介助を通して、顔の見える関係作りに努め、些細なことでも相談できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフに看取りケア研修を行い、医療連携体制整え、積極的に取り組んでいる。ACPを通して、本人、家族の思いに寄り添うケアに努めている。	入居の段階で意向を確認し、身体状況の変化に応じて繰り返し話し合い、方針を共有しながら取り組んでいる。アドバンス・ケア・プランニングを取り入れ、自らが望む人生の最終段階の医療やケアをネガティブな事ととらえないような声かけで確認している。家族との最後の時間も大切に宿泊もできるようにしている。今年度は2名の終末期支援に取り組み振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、急変時や、事故発生時の対応について訓練や講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定した訓練を年4回行っている。地域へも依頼しているが、コロナの為実践できていない。	火災、地震、水害を想定した内容で実施している。年1回は夜間想定で訓練を実施した。季節や時間帯を限定せず実施する事で入居者の変化を体感している。居室の出入り口に、歩けない方の目印を付け誘導者が分りやすいようにしている。消火訓練には入居者も参加しており、避難コースを散歩がてら歩く機会もついている。備蓄は3日分準備し、停電時の備えも整っている。震度4以上の時には自動的に職員は事業所に駆けつけるルールである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格の尊重とプライバシーが守られるよう努めている。特に排泄時や入浴時は注意している。	言葉使いや口調に気を付け、誇りを傷つけない介護に努めている。自分や家族の立場に置き換えた接し方を考えて対応している。衛生用品を使用している方の対応として、物品が人目につかないように持ち運ぶ事で統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが表出できるよう、コミュニケーションを考えて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設の理念でもあるので、特に力を入れて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する理美容院に行けるように支援したり、個々にあったおしゃれができるように購入したり、家族の協力をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように選択食を週1回取り入れたり、要望を聞きながらメニューを作成してる。また、準備や後片付けも役割として支援している。	希望を取り入れてメニューを作成し各ユニットで調理している。個々の状態に合わせた形態で提供しており、おやつ作りや毎週木曜日に選択食を取り入れ、食事にアクセントを付け楽しみになるようにしている。入居者は、盛り付けや後片付け、茶碗拭き等を役割とし、男性入居者も意欲的に参加され力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食べやすい大きさを工夫して、栄養バランスが保持できるようにしています。水分量は1日を通して確保できるように表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に合わせて口腔ケアを実施している。入れ歯は夜間に洗浄を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の自立度に合わせて、できるだけおむつから離脱できるようにしている。排泄パターンを活かし、トイレ誘導を行っている。	各ユニットに3ヶ所トイレが配置されている。車椅子の方も利用出来るトイレの設備も整っている。車椅子の方でも座位が保てる方は、トイレで排泄できる様に取り組むと共に、一人一人のパターンやサインを把握し、その方に合った声掛け、誘導、介助で自立に向けた支援を行っている。トイレでの排泄が困難な方に対しても、衛生用品を適宜使い分け、不快の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維の取れない方は青汁や野菜ジュース等を摂取してもらったり、砂糖の代わりにオリゴ糖を使ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	毎日入浴日を設け、個人の希望に添うようにしている。	入浴時間は午前中の設定ではあるが、毎日入浴出来る体制となっている。着替えを一緒に準備し、気分や体調、皮膚の状態に合わせて柔軟に対応できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望する室温や明暗を調整し、安心して気持ちよく眠られるよう支援している。また、不眠の場合、ホットミルクの提供や足浴等も実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等は薬局からの情報を常に確認できるようにしており、症状の変化を観察している。薬の変更時は本人、家族に説明して、安心して服用してもらえるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の役割や楽しみごとを把握して、実現できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、外出できるよう支援したり、家族の協力の下でかけられるよう支援していたが、コロナウイルスの影響で出来ていない。	希望の内容によっては行事として家族の協力を得ながら取り組んでいる。受診での外出時に買い物等に立ち寄る事も多いが、感染防止に留意しながら、地域の中で笑顔で過ごせるように外気に触れる機会を作っている。車椅子の方も公園まで散歩したり、出掛けたい気分の方に対しても一緒に付き添い、気分転換や心身機能の維持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金の管理能力に合わせた対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っていたり、施設内の電話を希望時にすぐ使用できるようにしている。管理者から家族への報告時には、家族と本人が電話で話せるようにしている。□ □		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かないように整理整頓している。音、光、温度に配慮している。季節感が感じられる花や飾り付けをしている。	共用空間は不快な音や臭気は感じられず、掃除、整理整頓がいき届き清潔感がある。入居者が居心地良く過ごせるように、カーテンで光の調整をしたり、テーブルの配置に気を配り家庭的な雰囲気を作らないように空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中でも自由に場所を変えられるようにソファを数台置き、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、家族とも相談しながら、本人が決定できるよう支援している。	ベッドやクローゼットが備え付けられているが、テレビ、冷蔵庫、ラジオ、携帯電話、馴染みの家具を持参している。空調、床暖房で個々に合わせた室温にする事で過ごしやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に室内を移動できるように手すりを設置したり、階段の段差を低めにして階段を使えるようにしている。また、ドアも開閉できるよう調整している。		